

市民の森・散策路清掃活動

日 時; 10月4日(日)、
午前10時～11時

集合場所; 市民の森、
湿地域の広場

9月6日は新橋自然観察クラブの愛護会活動、この時期最も除草作業が困難。作業を終え、広場のベンチでドーナツのおやつの一休み後、秋の森の自然観察に向かいました。駅側小高い樹林地区入り口右手の園路除草は横浜市が年1回除草することになりました。左手坂を下るとヤブミヨウガが黒い実を付け、シダの仲間のイノデがジャングルのジェラシイク・パークを思わせるとか…。旧地権者が植えて増え早春に芽を出した広場のホトギスが今花を咲かせています。

新橋市民の森の樹林地区と休耕田の湿地地区の間に造成中の浅間寺墓地があります。また周辺内外には市民の森としての未指定区画もあります。今後の課題として未指定区域については指定されるために地権者の理解を得るための努力が求められています。

浅間寺墓地計画については、平成 25 年 5 月に横浜市の許可に基づき、同年 7 月に造成工事が開始されましたが、9 月には計画地東側隣接地の崖が削られるという許可区域外の違法工事が明らかとなりました。その後の対応を含む状況について、原弥生台自治会会報 No.28(一杉雄二、浅間寺墓地造成工事の状況について、平成 26 年 3 月発行)で報告されています。さらにその後の平成 26 年 6 月末、工事変更についての説明で、基本整備が終わり、法面計画変更工事と管理棟建設を残すのみとされていましたが、10 月の台風 18 号の大雨で法面の一部が崩落し、墓地区画内も広範にわたって大きな被害を受けました(一杉雄二、浅間寺墓地造成工事の状況、原弥生台自治会会報 No.29、平成 27 年 3 月発行)。

今回、法面崩落の復旧工事について、平成 27 年 8 月 21 日の浅間寺による復旧工事説明会の概要は一杉氏によって自治会で回覧されていますが、改めて一部編集の上、新橋市民の森の課題とも捉え、以下のように転載させて頂きました。今後、第三段階として、新橋市民の森に調和する隣接浅間寺墓地とは何か、検討することが必要な課題と思われる。

浅間寺墓地崩落法面の復旧工事について

原弥生台自治会浅間寺墓地対策委員会会長 一杉 雄二

1. 復旧工事に係る交渉経過

- ① 平成 26 年 10 月 6 日 台風 18 号の豪雨により、浅間寺墓地区域内で水路の決壊、溢水による植栽等の損壊、法面崩落等の被害が発生した。
- ② 10 月 9 日 市調整区域課に対し、復旧工事に際しては、せせらぎの水質保全のため、セメントを使用しない工法を採るよう申し入れた。
- ③ 12 月 19 日 浅間寺による復旧工事説明会。・最奥部法面上部へのU字溝の設置は了承 ・水路(青地)内へのJ字溝の設置は反対、あくまでも墓地敷地内での対応を要求 ・崩落部の間知ブロック擁壁は認められない。対案として緑化テールアルメ工法(特殊部材を用いた盛土工)を提示するとともに、24 日、市調整区域課に対しこの旨を伝達する。

- ④ 平成 27 年 1 月 30 日 市から、テールアルメ工法は市の認定工法ではないので、この現場には適用できない旨の回答があった。

当方から、「現場の地質はローム層の上に表土が堆積したもので、今回の崩落は、その表土の滑りと思われる。現に、ブルーシートで覆われているとはいえ、その後、地山部分の崩落はまったく見られない。擁壁工にこだわらずローム層の強度に着目した法面保護と崩落防止との合わせ技を工夫出来ないか。」と申し入れる。

- ⑤ 2 月 27 日 浅間寺による復旧工事説明会。・青地部分の原状復旧工事は了承
・崩落部の間知ブロック擁壁と緑化は認められない。地山の強度に着目した対応策の検討を市に提起している旨を伝える。

＜その後浅間寺は、市の指導により現地の地質調査を実施し、地山の強度を確認した上で今回の工法を立案した。＞

- ⑥ 8 月 21 日 浅間寺による復旧工事説明会。・復旧工事について了承する。

2.復旧工事工法の概要

2-1 仮設工事(本工事の前処理)

- ① 法面犬走り部分のU字溝の枯葉、土砂を撤去する。
② 既設トンパック(仮復旧用1t詰土嚢)を撤去し、パック内の土砂が良質土であれば、本工事に使用する。

2-2 本工事

- ① 崩落は、出水により表土が滑り落ちたことにより生じたものと見られることから“地山”部分を露出し、工事施工部分(幅約8m)を整形する。(地山部分については、この間、市の指導により事業者が地質調査を行い、一定の強度があることを確認。)
② 地山部分表面に1m間隔で径5cmのドレーン(排水)パイプを設置し、流末を既設U字溝に流す。
③ 崩落部分は良質土で盛土し、45度の法面に整形する。盛土の“滑り”を防ぐため、法面に1m間隔で単管パイプを打設する。単管パイプの間に透水マットを設置し、法面地中への浸透水をドレーンパイプに誘導する。
④ 転圧等により突き固めた法面の表面保護のため、普通土嚢(25cm×25cm×13cm)を敷き詰め、1㎡あたり2本の木杭を打ち、土嚢の滑り落ちを防ぐ。表面にはワラ芝を張り、緑化を進める。